

3 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの

明朝体の字形と手書きの楷書の字形との間には、以下に挙げる漢字の例のように、いろいろな違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表し方の差であり、字形に違いがあっても、同じ字体として認めることのできるものである。それらを(1)～(5)に分類して示した。

(1) 折り方に関する例

明朝体の点画の折り方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

ア 「ム」, 「幺」のような形を構成要素として有するもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 手書きの楷書の例			
ム	雲—雲	去—去	公—公	など
幺	玄—玄	糸—糸	細—細	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
ム	育	雲	屋	会	絵	拈	去	強	芸	公	広	鉦	参	酸	至	私
	始	治	室	松	窓	総	態	台	転	伝	統	能	仏	弁	法	流
																など
幺	絵	紀	機	級	給	系	係	経	結	潔	絹	玄	後	紅	細	糸
	紙	磁	終	縦	縮	純	織	績	絶	線	素	組	総	続	率	孫
	統	納	編	綿	約	幼	練	緑	など							
その他	該	骸	刻	など												

イ 縦画のはねの表現に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 手書きの楷書の例			
衣	衣—衣	製—製	裏—裏	など
良	眼—眼	銀—銀	良—良	など
辰	唇—唇	振—振	震—震	など
氏	氏—氏	紙—紙	低—低	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
衣	衣 裁 衰 製 装 表 俵 裏 など
良	飲 館 眼 郷 銀 限 根 飼 食 節 退 飯 養 良 朗 など
辰	唇 振 震 農 濃 など
氏	氏 紙 低 底 など
民	民 眠 など
長	長 帳 張 など
その他	越 喪 展 など

ウ 下ろした縦画を右に折る際の表し方に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例	
比	比—比	階—階	混—混 など
ㄣ	汚—汚	号—号	など
弓	弓—弓	引—引	など
匸	医—医	区—区	など
乚	断—断	直—直	など
ㄩ	収—収		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
比	階 混 比 批 陞 など
ㄣ	汚 顎 巧 号 など
与	写 与 など
弓	引 弓 強 弱 第 張 弟 費 など
ル	頑 競 微 など
印	仰 迎 抑 など
ㄩ	貿 留 など
匸	医 区 など
乚	繼 梘 植 世 断 值 置 直 葉 など
凵	画 岸 岩 逆 胸 鋼 山 齒 出 炭 島 惱 腦 満 密 など
女	安 案 桜 好 妻 始 姉 姿 数 接 努 婦 妹 要 など
母	海 毒 梅 每 など
冂	貫 慣 など
及	及 吸 級 など
その他	誤 考 災 収 [*] 母 卵 など

※ 明朝体において、「収」の「収」の部分、「叫」、「糾」などの右側部分と形が似ているため3画であると誤解されることがあるが、2画である。

(2) 点画の組合せ方に関する例

明朝体の点画の組合せ方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例 - 手書きの楷書の例		
水	水—水	永—永	など
氷	求—求	康—康	など
豕	家—家	象—象	隊—隊
人	人—人	欠—欠	次—次
彳	派—派	脈—脈	など
北	北—北	背—背	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
水	永 泳 承 蒸 水 泉 線 氷 など
氷	求 救 球 康 泰 様 緑 録 など
豕	家 象 像 隊 など
人	飲 火 歌 灰 欠 災 次 秋 人 炭 談 欲 など
彳	派 脈 など
北	背 北 など
その他	久 [*] 備 旅 など

※ 「久」の明朝体に「久」のように3画目が2画目の角の辺りに接するデザインのものがあるが、手書きの楷書では「久」と書き表すのが一般的である。

(3) 「筆押さえ」等に関する例

明朝体の特徴的な表し方に「筆押さえ」があり、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体と手書きの楷書における字形の相違は、原則として、字体の相違にまで及ぶものではない。近年、「筆押さえ」等を付す明朝体のデザインは少なくなっているため、下記の構成要素の例は、常用漢字表の通用字体として用いられているものを中心に挙げた。なお、「字形比較表」の「印刷文字の字形の例」欄には、「筆押さえ」等が付された明朝体の例も多く示している。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例	
史	史—史	使—使 吏—吏	など
之	芝—芝	乏—乏	など
入	入—入	込—込	など
入	詮—詮	喩—喩	など
八	八—八	公—公 船—船	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
史	史 使 吏 など
之	芝 乏 など
入	込 入 など
入*	詮 喩 など
八	沿 穴 公 船 八 貧 分 粉 など
その他	延 伎 建 健 交 支 枝 丈 誕 庭 父 文 など

※ 「詮」、「喩」など、明朝体の「入」とそれを手書きした際の「入」の字形の差異は、字体の違いに及んでいると考えられる場合がある。なお、明朝体の「入」とおりに手書きする際に、「入」のように1画目の左はらいの途中の部分に始筆を接触させて右はらいを書くべきとの考え方があるが、明朝体のデザインに影響されたものであり、本来、その必要はない。

(4) 曲直に関する例

明朝体においては、手書きの楷書では曲線で書かれることの多い点画を直線的に表す場合があり、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げられるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例	
子	子—子	学—学 好—好	など
手	手—手	拳—拳	など
了	了—了	承—承 蒸—蒸	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
子	学 季 教 好 孝 厚 子 字 熟 存 孫 乳 遊 など
手	拳 摯 手 摩 など
了	承 蒸 了 など
その他	極 呼 など

(5) その他

上記(1)～(4)のほか、明朝体に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と手書きの楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例	手書きの楷書の例	
讠	近—近	述—述	連—連 など
讠	遡—遡	遜—遜	謎—謎 など
讠	簡—簡	笑—笑	箱—箱 など
心	心—心	総—総	必—必 など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
讠※	遺 運 遠 過 逆 近 週 述 進 選 送 造 速 退 達 追 通 適 道 導 辺 返 迷 遊 連 など
讠※	遡 遜 謎 など
讠	管 簡 筋 策 算 笑 節 第 築 笛 答 等 箱 筆 など
心	愛 悪 意 応 億 恩 感 急 憲 志 思 誌 心 窓 想 総 息 態 忠 徳 認 念 秘 悲 必 忘 密 優 など

※ 「遡」、「遜」、「謎」など、明朝体で点二つで表される「しんにゅう」を有する字を手書きする場合について、常用漢字表では「讠」（点一つの「しんにゅう」）と同様に「讠」と書くことされているが、戸籍や住民基本台帳に関する窓口業務等においては、常用漢字表における字体・字形の考え方とは異なった取扱いがなされる場合もある。窓口業務等では、「しんにゅう」を含む漢字については、申請者が手で記載する際にも、点一つ（「讠」）と点二つ（「讠・讠」）との書き分けが行われる場合がある。そのような書き分けを行う場合を含め、点二つの「しんにゅう」の漢字を「讠・讠」のように書いたものを誤りとすべきではない。

なお、明朝体においては、点一つのもの（「讠」）と二つのもの（「讠」）は別の字体として扱われる。